2018年JAF全日本ジムカーナ選手権第8戦　Super Gymkhana in IOX-AROSA［JAF公認No.2018-2120］

開催日：8月25～26日　開催場所：イオックスアローザスキー場　格式：国内
主催：AND［クラブ登録No.加盟16002］、ABC［クラブ登録No.加盟16004］

フォト＆レポート／JAFスポーツ編集部

攻めに攻めた澤平直樹インテが逆転で２勝めをゲット！

第５戦に続くシーズン２勝めをあげたSA2クラス澤平直樹選手。

2018年の全日本ジムカーナ選手権は富山イオックスアローザで第8戦を迎え、シリーズ終盤戦に突入した。

終盤戦を待たずに前戦SUGOでPN2山野哲也、PN3ユウの両選手が早々とチャンピオンを確定。このイオックスの一戦にも複数のクラスでチャンピオン確定を賭けたバトルが持ち込まれた。年間10戦有効7戦の戦いとあって、取りこぼしは3戦までは何とかOKだが、やはり大崩れせず、コンスタントに上位のポイントを稼いできた、安定感のあるチャンピオン経験者達がここまでランキングも上位につけている。

第6戦みかわに続く今季2度めのフルパイロン戦となった今回の一戦。これまでのイオックスと同様にコースを真ん中の排水溝によって2分割し、前半は中高速主体のターンが続くセクションを設定。後半はタイトターンを繰り返した末に、お馴染みのフリーターンをクリアしてゴールというレイアウトだ。

PN1クラスはヒート1、タイトルを射程距離に置きたい斉藤邦夫選手が1分23秒737で暫定首位に立つ。しかし1分23秒783で小林規敏、0.002秒差で小林キュウテンという“W小林”が僅差でつけて予断を許さない。一方、斉藤選手とチャンピオンを争う福田大輔選手はギリギリのフリーターンを見せたが、パイロン間不通過の判定でミスコースとなってしまう。

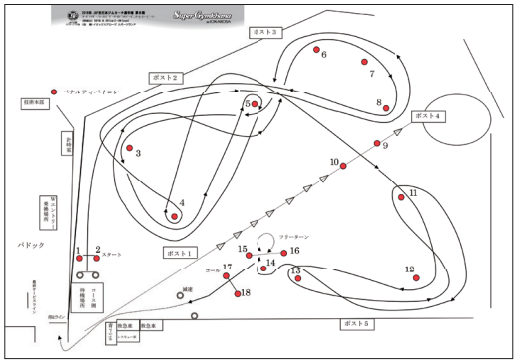
勝負の2本目。クラス前半ゼッケンのドライバーがタイムダウン傾向となる中、逆転を狙う小林両選手は果敢な走りを見せるが、24秒の壁を破れずともにタイムダウン。しかし斉藤選手は0.36秒詰めて自らの暫定ベストを更新し、ラストゼッケン福田選手のタイムを待つ。しかし福田選手は前半区間で痛恨のスピン。逆転は果たせず、斉藤選手が優勝をさらった。

「昨日までは今までにないくらいグリップしたんだけど、今日はいつものアローザに戻ったんで1本めは手こずった。それでも0.05秒の差をつけられたんで、2本めもタイムを上げる自信はあったんだ。フリーターンも1本めは、だいぶ安全運転だね、と言われたんで2本めは攻

PN1／1. ヒート1のタイムで2位入賞の小林規敏選手。2. 小林キュウテン選手は0.002秒差の3位に甘んじた。3. 4勝めを飾ってタイトルレースでも優位に立った斉藤邦夫選手。

PN2・PN3／*4.* PN2で3位に入り、今季初表彰台のいながわひろゆき選手。*5.* PN3若林隼人選手も今季初表彰台の3位獲得。*6.* PN2山野哲也選手は4連勝。*7.* ユウ選手もPN3で6連勝。*8.* PN3で2位入賞の西野洋平選手。*9.* PN2河本晃一選手も2位獲得。

PN4・SA1／*10.* 僅差の2位に甘んじたSA1下河辺友貴選手。*11.* PN4野島孝宏選手は2位にとどまった。*12.13.* ヒート2もしっかりタイムを詰めてV2を確定したSA1若林拳人選手。*14.* 今回も背水の陣で臨んだPN4茅野成樹選手は2本ともベストを奪い、快勝。*15.* SA1で3位入賞の志村雅紀選手。*16.* PN4石原昌行選手は3位に食い込んだ。



コースをふたつのセクションに分けるのが通例のイオックス。ゴール手前のフリーターンは相変わらずの高難度の設定となった。

めましたよ。そうしないと福田君に抜かれると思ったからね」と激走を振り返った。

第7戦までに6戦に出場。3勝をあげて2年連続のタイトルに王手をかけた若林拳人選手が乗り込んできたSA1クラス。フルパイロンを得意とする関東出身だけに若林選手はヒート1から暫定ベストを奪い、好調な滑り出しを見せる。このディフェンディングチャンピオンと同じ1分21秒台に入れて食らいついたのが、若手の成長株、下河辺友貴選手。0.15秒差の2番手につけたが、ヒート2は「1本めが僅差だったんで、頑張れば行けるなぁと思ったら、苦手な所まで頑張りすぎてしまって(笑)」とふたつのペナルティを喰らって撃沈してしまう。

ヒート2は22秒を破るドライバーは現れず、最後はウィニングランとなった若林選手は0.14秒、自らのベストを削り取る貫禄の走りを見せて、2戦を残してV2を確定した。

「気持よく勝てました。1本め勝負と思ってましたが、ベストが獲れたので2本めも安心して落ち着いて走れた感じですね。1本めはシフトの選択でアタフタしたけど、2本めはほぼ100%の走りです。昨日も今日も1本めはちょっとタイヤが食わない感じがあったんで、それを改善した昨日の2本めのセッティングで走ったことがタイムアップに繋がったと思います」と自らの走りを冷静に分析した。

一方、混戦続くSA2クラスは予想通り、ヒート1から上位陣がコンマ差にひしめく大接戦に。その中、1分21秒001の暫定ベストを奪ったのはスポット参戦の地元中部地区が誇るテクニシャン、榎本利弘選手。ヒート2は20秒台の攻防になるかと思われたが、21秒を破るドライバーは現れず、榎本選手自身もタイムダウンに終わってしまう。だがこの均衡状態は澤平直樹選手の手によって破られることに。

「2本めは攻めすぎて大きなラインになった所も多かったけど、それくらいの気持で行かないと勝てないと思ったんですよ。昨日も2本め、タイム上がったんで、絶対上げられる、と“踏んでいく”ことを優先させたのが良かった。フリーターンもラバーが乗って動かしにくかったので、やり過ぎるくらいの気持で行きましたよ」と振り返ったそのタイムは1分20秒952と結果的に唯一の21秒切りとなった。

金星を逃した榎本選手は「2本めより1本めの後半が悔いが残りますね。2本めに後半の攻略法を変えたら、0.3秒上がったので最初からこれをやっていれば…」と悔しさを滲ませた。

SA2・SA3 ／ *17.* 見事な逆転劇を見せて歓喜するSA2澤平直樹選手。*18.* SA2佐藤巧選手はヒート2で3位まで挽回。*19.* SA3久保真吾選手は今季3度めの3位獲得。*20.* SA3渡辺公選手は2戦連続となる2位をゲット。*21.* ヒート1を首位で折り返したSA2榎本利弘選手だったが逆転を許し、2位。*22.23.* ここ2戦、勝ち星から見放されていたSA3チャンプ小俣洋平選手。5勝めをマークしてV3を確定した。

SA4・SC ／ *24.* SA4で3位入賞の金本辰也選手。*25.* 前戦優勝のSC野尻隆司選手は3位にとどまった。*26.* 0.01秒差の激戦を制してチャンピオン確定のSA4津川信次選手。*27.* 3連勝を狙ったSA4菱井将文選手だったが僅差で破れ、無念の2位。*28.*「首位固め」を狙ったSC西原正樹選手。今回は2位に甘んじた。*29.30.* ツボにハマった時の速さが久々、復活。SCは牧野タイソン選手がシーズン2勝めをさらった。

SA3クラスでは小俣洋平選手が2本ともベストで上がって3戦ぶりの勝利をあげた。最大のライバル西森顕選手は中間で好タイムをマークしながらフリーターンでミス、逆転はならなかった。3年連続のタイトルを確定した小俣選手は、「今年は前半はタイヤに助けられた感がありましたけど、西森さんはどこでも速いので、夏場に入ったらもう気持の勝負だと思ってました。今日も最後を西森さんに決められてたらどうだったか。ただ気持で負けなかったから獲れたという感じは今年は強いです」と振り返った。

トリを務めたSCクラスは今年、本格復帰を果たした牧野タイソン選手がヒート1のタイムで逃げ切り、開幕戦以来の2勝めをマーク。ポイントリーダー西原正樹選手はヒート2で0.13秒差まで追い詰めたが、及ばなかった。

「2本めはグリップダウンするだろうという読みだったので1本めは頑張りました」と牧野選手。「ショックをOHしたりとかしてみたんですが、どうもしっくり来なかったんで今回は思い切って方向性を変えてみたのが当たりました」と勝因を振り返った。

「ようやく曲がりやすく進みやすい方向が見えてきた。休んでる間に、このクラスが凄いクラスになってたんで、本格的なSC仕様にしたんですけど、やっぱり色々とトラブルが出てきて。ようやくマトモなクルマになってきたという感じですね」と手応えを掴んだ様子だった。

なおその他のクラスは、PN2クラスは山野哲也選手が、PN3クラスはユウ選手がともにヒート1のタイムで優勝。特にユウ選手は圧巻の走りを見せたヒート1の2WD最速タイムで逃げ切った。タイムダウン傾向は4WDのPN4クラスに入ると解消し、ヒート2で1分20秒台に叩き入れた茅野成樹選手がシーズン2勝めをさらって逆転タイトルに望みを繋げた。SA4クラスは津川信次選手が0.01秒の僅差で菱井将文選手を下し、5年連続のタイトルを確定した。

今回は選手権外ではあったが、Dクラスが特設され、関谷光弘選手との接戦を制した佐藤宗嗣選手が優勝した。